

会館だより

第 20 号

昭和58年 1 月15日

国立婦人教育会館

National Women's Education Centre



▲ 学校橋からの会館

目 次

※婦人会館	中村紀伊(2)
※主催事業	(3)
※5周年記念事業報告	(4)
※情報図書室から	(6)
※回覧板・会館日誌	(7)
※女の目・男の目	(8)

「 婦 人 会 館 」

国立婦人教育会館運営委員 中村紀伊



国立婦人教育会館が昨秋目出たく5周年を迎えそれを記念して国際会議や女性フェスティバルなどさまざまな催しが行われた。

雑木とすすきと沼の外は何も無かった武蔵野の一角に、この婦人教育会館が建設されたことによって、延52万人の人々がこの地を訪れることとなった。そして北海道の主婦が沖縄の主婦と一夜を語り合い、時には遠いヨーロッパやアジアの人々とも交流し合うこともある。一つの施設が生れたことで、こんなに多くの婦人が新しい体験

を持ち、沢山の収穫を得ることが出来た。素晴らしいことである。

国立の婦人教育会館を是非建てたいと運動して来た私たちにとって、この5年間の発展ぶりは当初の夢をはるかに超えたもので本当にうれしく思う。

そしてまた婦人教育会館の存在の必要性を改めて痛感させられたのである。

この会館に集う全国の婦人たちの内、何人がその地元の県や市にも婦人会館があることを知って居られるだろうか。全国で133館、私立あり公立あり、公立で運営は民間委託もあり、国立ほどではないがかなり立派な施設と事業内容をほこる会館もある。一方私立で建物も古くなり経営の苦労とたたかいながら力を合せて婦人の向上と自立のために事業を進めている会館もある。

戦後婦人活動が活発になって来るにつれ自分たちの運動の拠点にする城がほしい、場を作りたいと云う願いが高まり、婦人会館が各地に建てられて行ったのが昭和30年代からである。まず婦人たちの募金で建てられた私立婦人会館からスタートして、公立が続いた。婦人たちは“自己の場”をもつことによって学習に、情報交流に婦人の活動は新しい発展を見たのである。また経営を担当したり、ボランティア活動で運営をより上げる婦人たちにも新しい才能をはぐくみ育てる場となって来た。

全国に婦人会館を持ち、そのよりよい発展を願う人たちによって、全国婦人会館協議会が作られ、年に一度、各県廻りもちで全国会議を開催している。お互いに運営の苦労や新しい事業のプログラムを交流し合い、さまざまな収穫を得て帰り新鮮な意欲をもってまた仕事にとりくむのである。国立婦人教育会館はこうした地方の婦人会館と連携して情報を流し交流をはかる事業を更にすすめてほしいし、この会館に集う全国の皆さんは地元の婦人会館も活用しそこを育ててほしいと思う。婦人の城は婦人たちで守り発展させてこそ、真の自立と向上につながるのだから。

(主婦連合会副会長)

主 催 事 業

昭和57年度主催事業は、それぞれの趣旨やねらいにそって順調に展開されて来ました。とりわけ今年度は開館5周年記念事業という会館あげての大きな一つの節を迎え、とどこおりなく乗り切ることが出来ました。そして今年度の主催事業も残りわずかになりました。1月下旬には家庭教育研究セミナー、2月には全国婦人教育交流集会、3月に親子利用受入れ事業を行います。具体的な事がらについては下記を参照してください。

*** お 知 ら せ ***

●全国婦人教育交流集会

今春2月16日(木)～18日(金)の3日間にわたって、全国婦人教育交流集会を開催します。

参加者は、部会助言者で構成される選考委員会を1月8日(土)に開催し、応募意見等により、全国から100名が選ばれました。

1. 主 題 みんなで考えよう「豊かな心を育てる家庭教育を」
—親の立場から・学習活動の立場から・地域活動の立場から—

2. プログラム

(1) 講演 (公開)

テーマ 現代の家族を考える
講 師 小此木啓吾氏 (慶応義塾大学・医学部助教授)

- (2) 部会別討議 (立場別により、5部会を構成する)
青少年の育成に果たす家庭教育の役割をとり上げて、親、学習活動、地域活動の立場別に意見交換を行います。

第1部会 (親の立場)

木村 温美氏 (福井大学・教育学部教授)
星 美智子氏 (日本総合愛育研究所・研究員)

第2部会 (学習活動の立場)

山本 和代氏 (日本女子大学・女子教育研究所・主任研究員)

第3部会 (地域活動の立場)

楠山三香男氏 (サンケイ新聞・客員論説委員)

萩原 元昭氏 (群馬大学・教育学部教授)

(3) 全体会

テーマ 豊かな心を育てる家庭教育を進めるために

講 師 各部会の助言者

●親子利用受入れ事業

親子がともに学習・交流活動を行い、子どもの発達と親の役割を考える機会とするための特別期間を設けます。

・ 期 日

昭和58年3月28日(月)～3月29日(火)

・ 参加対象

子ども会・PTA・家庭教育学級等親と子の共同学習のプログラムを持っているグループ。
(1グループ親子三組以上)

・ 利用できる人数

宿泊 130名程度 日帰り 100名程度(両日とも)

・ 申込み方法

国立婦人教育会館利用申込書による。

・ 申込み受け付け期間

昭和58年1月10日(月)～2月20日(日)(定員になり次第締切る。)

※ 詳細は、事業課にお問い合わせ下さい。

報 告

●家庭教育研究セミナー(第1回～第3回)

婦人の就業と家庭教育の課題に焦点をあてて行った56年度研究セミナーの継続として、今年度は「現代日本社会における家庭の教育的役割 — 親の教育的機能の増進と補完のための学習を考える —」をテーマに、柏木恵子氏(東京女子大学教授)を座長として、既に3回の研究協議が行われています。今回の研究セミナーは、就業の有無を問わず現代の母親が抱えている育児不安等の問題意識の現状把握及びそれに対応するための両親教育の方法と効果について考察することを主なねらいとしております。

これまでの概要は次のとおりです。

- (1) 議題1 家庭教育をめぐる現状 — 親の抱える問題意識を中心に —

田村健二氏(東洋大学教授)から、日本の教育の価値観の特長(学力・体力・規則への従順性の尊重)が親の意識と子供の人間形成にもたらす問題点と今後の親の学習の方向について、繁多進氏(横浜国立大学助教授)から、家庭保育児と施設保育児の行動観察の結果の比較によって子供の発達を見た場合の差異、親の保育態度との関連について、柏木恵子氏からは、渡辺恵子氏(神奈川大学助教授)の協力も得て当会館利用者を対象に行った調査結果を基に、主として小学生以下の子供を持つ専業主婦、就業主婦に見る家族の特長、夫の協力度、性役割分業観、育児

告 白

不安の相関等についての報告がありました。

- (2) 議題2 両親教育の方法と効果 — 親のニードに対応するために —

牧野カツコ氏(横浜国立大学助教授)から、日本の学校教育の中で「両親教育」相当の内容が扱われている教科目の現状と問題点について家庭科教育を中心とした報告が、更に近藤千恵氏(親業訓練協会理事長)から、親業訓練の事例を通して見た集合学習の効果についての特別報告がありました。

(3) 今後の予定

58年1月28日(金)に開催が予定されている第4回セミナーでは、依谷正樹氏(兵庫教育大学教授)による家庭教育相談事業を中心とした家庭教育振興施策の分析の報告に続いて、議題3(両親教育の今後の課題 — よりよい親役割の学習のために)の討議を行い、現行の両親教育関係施策(学校教育及び社会教育を含む)を有効に実践するために必要な方策等について、学習の展開方法も視野に入れながらまとめていく予定です。

なお、56・57年度研究セミナーの成果は、58年度にOECD・CERI(経済協力開発機構教育研究革新センター)、文部省との共催で当会館が行うことが予定されている「OECD・CERI家庭の教育的役割日本セミナー」に提出する予定です。

開館 5 周年記念事業報告

開館 5 周年記念事業は、婦人教育の充実をめざして「学習と実践の輪を」をテーマに、11月10日(木)から30日(火)まで、会館の諸施設を利用して各種の事業を行い、海外 6 カ国をはじめ全国各地から約 1,900 人の参加を得、多彩な発表と交流により盛会裡に終了しました。

その概要を紹介すると次のとおりです。

●婦人教育国際交流事業

会館は、11月5日(金)から22日(月)までの18日間、カナダ、フィンランド、ケニア、韓国、ニュージーランド、フィリピンから各 1 名の婦人教育専門家を招へいし、国際セミナー、国内視察旅行、国際交流会などを行いました。

国際セミナーは、11月10日(木)から12日(金)まで、「婦人の社会参加と生涯教育 ― 方針決定への婦人の参加」をテーマとし、海外からの招へい者に加えて、日本の婦人教育研究者及び婦人団体関係者 8 名が出席し、原ひろ子氏(お茶の水女子大学助教授)を議長に進められました。

第 1 日目は、社会活動、職業活動、公職活動等さまざまなレベルや場における方針決定に女性がどの程度参加しているか、各国の現状を報告し、第 2 日目は、参加者が係わる活動や研究事例を発表しました。第 3 日目は、副議長の目黒依子氏(上智大学助教授)の問題提起を受けて、①三つのレベル(社会制度等フォーマルなレベル、選挙等により政策決定に影響を与えるインフォーマルなレベル、婦人団体のメンバーとして影響を与えるセミ・フォーマルなレベル)での方針決定の内容及意味の検討 ②方針決定システムを規定する文化的要因 ③方針決定に教育がどのような働きをするか ④女らしさを維持しながら権力を得ることが可能だとするならば、その場合の“女らしさ”とは何か ⑤各国共通の最終目標について活発に討議がおこなわれ、次のことが明らかにされました。

①それぞれの国が持つ文化的社会的特質により婦人の方針決定の参加状況が多様である。②多様な社会の違いの中の一つの共通点は、婦人が男性と同じように社会の方針決定に参加していないということであり、たとえ婦人のために機会が与えられている場合でも、機会の使い方が男女で異なり、性別役割分業観によって制限されている。③どの国においても婦人の方針決定参加が重要である。③につい



▲国際セミナー風景

ては、そのための教育(ケニア:識字教育、日本:政治教育)等の具体的方法の提案もあり、実りある情報交換を行いました。

このセミナーは一般にも公開され、約 100 名の方が参加して質問や意見を紙面に議長に提出、討議の内容に反映されました。

海外からの招へい者は、このあと、視察旅行に出發しました。茨城県では、農家視察や農村の婦人との懇談、婦人教育関係者との交流会などを行ない、京都市では、市内や西陣織物工場を見学して日本古来の文化や伝統にふれました。最後の視察先大阪市では、同市立婦人会館を見学し、婦人教育指導者と、婦人の社会参加について意見を交換しました。

視察旅行が終って、19日(金)午後には、女性フェスティバル参加者も含めて約 110 名が参加して、国際交流会が、目黒依子氏の司会により開かれました。6 カ国の婦人教育専門家からは、自国の実態と対比して、日本の女性ももっと政策決定への参加に努力すべきではないかなどの発言がありました。

●女性フェスティバル

(婦人学習活動交流発表会)

女性フェスティバルは11月19日(金)及び20日(土)の 2 日間にわたって盛大に繰り広げられました。その概要は、次のとおりです。

参加グループは39団体で遠くは青森県、北九州市からの参加を得、13都県にわたるもので発表参加者 464 名、一般傍聴者は300 名を越え、総計 700 名以上となり盛況でした。

発表内容は、地域活動やボランティア活動が12グループで最も多く、音楽(詩吟を含む) 7 グループ、手芸 7 グループ、学習活動 6 グループ、茶華道 6 グループ、書道 1 グループで、発表もそれぞれ充実した素晴らしいものばかりでした。これは、同時に婦人の学習活動の多様性を如実に物語っているものでもありました。

2 日間とも午前中は全員参加による講堂を使用しての発表(第 1 部)、午後は会館の諸施設を利用しての自由な任意のプログラム(第 2 部)の発表がありました。第 2 部は21グループの参加で主に展示と実技が行われました。

まず研修棟 1 階を中心としたブロックでは書道・生花・ししゅう・着付教室・手芸・染色・ボランティア活動及び学習活動の報告書等の記録展示・木彫作品・手作り作品の展示等の発表があり、その内容は、いずれも学習成果と趣向がこらされたもので力作揃いとなりました。その他講堂では民謡・民舞・マンドリン演奏・フォークダンス等の華麗な演技が繰り広げられました。一方音楽室では婦人グループの合唱が、また日本家屋では、お点前が披露され初心者を始め大勢の人々に利用されたほか、会館の正面玄関前の芝生では、野点が行われ紅白の幕を張り、緋毛せんを敷いた光景は一層極立ち、多くの人の注目

を集めていました。

これらのグループは、この5年間に当会館を利用したことのある団体や全国の各地で活躍されている団体で、こうした人々との交流・情報交換等により婦人の学習を深める契機を作ることも目的の一つでした。これにより婦人の学習の輪の広がり実践が期待されています。



▲女性フェスティバル第1部発表風景

●婦人国内研修受入れ事業

第2回目の国内研修は、開館5周年記念事業の一つとして、11月16日(火)～18日(木)の3日間北海道の5団体を始め23の国内研修グループ204名の参加を得ました。

＜参加団体＞

- | | | |
|-----------|--------------|------------|
| 1.(北)白老町 | 9. 静岡県 | 17. 広島県 |
| 2.(北)美幌町 | 10.(福)富士市 | 18.(広)広島市 |
| 3.(北)石狩管内 | 11.(福)藤枝市 | 19. 山口県 |
| 4.(北)室蘭市 | 12. 大阪府立婦人会館 | 20.(福)北九州市 |
| 5.(北)函館市 | 13. 兵庫県 | 21. 佐賀県 |
| 6. 千葉県 | 14. 和歌山県 | 22. 長崎県 |
| 7. 新潟県 | 15. 鳥取県 | 23. 熊本県 |
| 8.(石)野々市町 | 16.(島)松江市 | |

自主プログラムを中心に研修が行われましたが、特に「論文発表会」には、20団体171名が参加し盛況でした。

「勉強になった。」「素晴らしい発表だ。」「熱心な活動をしているので感心した。」「今後に役立てたい。」「実践に基づいた内容で身近かに感じた。」等の感想が寄せられました。

●論文発表会

婦人教育に関する論文募集には、全国から144編の応募がありました。10月19日(火)に選考委員会(委員長 斉藤正会館運営委員会会長、他6名)を開催し、優秀賞6編と選外佳作2編を決定しました。11月17日(内)には表彰式とあわせて執筆者による優秀賞論文の発表会を開催しました。どの論文も実践に裏付けられた充実した内容で参加者に訴えかける力のあるものでした。

また、この発表会には、会館視察で訪れた小川前文部大臣が出席、優秀賞の各受賞者の表彰式で拍手をおくられた後、祝辞が述べられ、盛会のうちに終了しました。

〔優秀賞〕

- 婦人教育の充実をめざして—実践を通して考えたこと— 豊田宣子(公民館職員・東京都)
- 「竜のうた」の出版とそこで学んだもの 細井

幸代(主婦・新潟市女性史クラブ・新潟県)

○婦人教育の充実をめざして—農村地域の婦人団体活動— 高橋惇子(短大助教授・鳥取県)

○「家庭内における婦人教育の充実をめざして」—新潟の現状と動きの中で— 古橋エツ子(主婦・新潟婦人研究者の会等・新潟県)

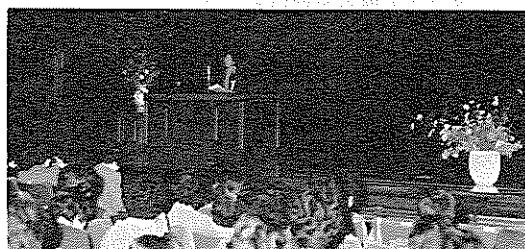
○伝承から開発へ 原田春男(大学講師・兵庫県)

○主婦の学習活動の理念と方法—東京都武蔵野市での実践例をめぐって— 信田さよ子(心理療法士・東京都)

〔選外佳作〕

○歴史の変革をめざして 志村緑(主婦・国際婦人教育振興会・神奈川県)

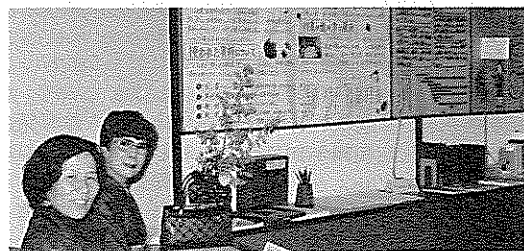
○私が受けた婦人教育 柳沢由紀子(主婦・グループ朗等・東京都)



▲発表中の優秀賞受賞者

●会館ボランティアつどいの場

女性フェスティバル開催期間を中心に会館ボランティアにより、つどいの場が持たれました。本館玄関ホールとボランティアルームでは、なごみ(利用者の世話・案内)、JTV(情報図書)、国際交流の三つのグループがパネル、資料、写真等の展示を行い、力作ぞろいでの異色の展示と高い評価を受けました。19・20日には茶室「和庵(なごみあん)」でお茶のグループボランティアによるお点前が行われ利用者は茶道の雰囲気を楽しみました。一方調理室・試食室・研修棟ラウンジでは模擬店を開き軽食をはじめ各種のものがたちまち品切れとなる有様でした。また午後のバザーも心を込めた手作りど安価の為に予想以上の人気で対応にうれしい悲鳴を上げていました。この両日は会員の総力を結集し一致協力して盛会のうちに終了しました。この事業を通して会員の相互理解と融和の精神が一層高揚され、更に貴重な体験をつみ重ねることが出来ました。



▲展示説明中の会館ボランティア

●映画会

映画会は、会館が所蔵している教材映画や、普段

余り観る機会が少ない劇映画を、多くの人々に観てもらうことをねらいとして、11月12日(金)から18日(木)までの間の5日間、約2時間ずつ開催しました。上映された映画は159本の中から「日本近代女性の歩み」「外国人からみた日本人」「見なおせあなたの化粧法」など9本、埼玉県視聴覚ライブラリーから借用した劇映画は、「涙をたらした神」「母さんはうたったよ」「夕やけのマイウェイ」など5本でした。

会館には、これらの教材映画のほか録画教材110本、スライド6セットがあります。今後とも積極的に活用されるよう整備していく予定です。

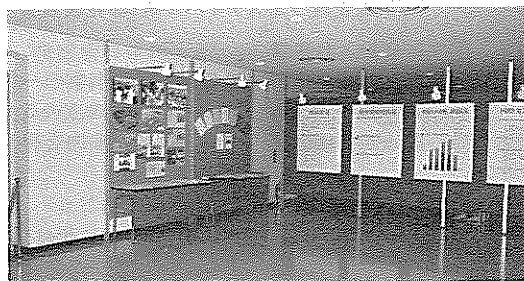
●記念展示「5年のあゆみ展」

開館5周年を記念し、57年11月10日(木)～11月30日(火)まで本館2階展示ホールにおいて、創設から現在にいたる会館の活動状況等について、図書、写真及び資料等による展示を行いました。

内容は、次のとおりです。(1)国立婦人教育会館の目的と事業：会館の設置目的並びに研修、交流、情報という三つの事業についての説明(2)5年の経緯：設立準備時から現在にいたるまでの沿革及び婦人に関する主な社会の動きを年表で紹介するとともに、新聞、雑誌記事等を展示(3)各地の婦人教育施設：全国各地の婦人教育施設の現状を地図パネルやパンフレットにより紹介(4)利用状況：会館の利用の実情について、利用者数、利用目的、学習内容等の5年間の動きを紹介(5)主催事業実施状況：会館が主

催する各種の事業について、事業活動の経緯、内容等を体系的、総括的に紹介(6)情報事業：会館における図書資料の収集・提供等情報活動の現状を紹介(7)会館作成資料：会館発行の定期刊行物、各種主催事業報告書及び資料等を展示。

来場者は、この20日間で約1,300人になり(1日平均65人)、今後展示事業を実施していく上で参考となる貴重な意見をいただきました。「来館した方々に対して啓蒙がなされている」、「わかりやすい展示方法でとても勉強になった」、「会館の利用状況が具体的にわかった」、「今後の婦人活動に役立てたい」などの感想、また、「もっとPRをしてほしい」、「視覚的、立体的な表現方法がもっとほしい」、などのこれらの貴重なご意見をもとに今後の展示事業を一層充実したものにしていきたいと考えています。



▲「5年のあゆみ展」展示風景

情報図書室から

●コピーサービスの利用を！

昭和57年4月から始めたコピーサービスの利用状況は表のとおりで、まだ活発とはいえませんでした。コピーの申込資料は、「Sign」、「Sex Roles」など女性学関係洋雑誌、婦人教育・婦人問題関連雑誌・パンフレット及び新聞切り抜き等、当図書室独自のものが大半です。また、利用者は北海道から九州迄全国に広がっており、職業は研究者がほとんどで、外に主婦、学生、婦人教育行政担当者などとなっています。料金は国立大学附属図書館に準じ、私費・公費共取扱っています。コピーは料金を受取ってから、おおむね一週間以内に発送しています。

なお、図書の所蔵状況を知っていただくために、蔵書目録を今年2回にわたって刊行しましたので、ご参照下さい。逐次刊行物については、婦人教育情報第1号(昭和54年10月)に掲載して以来、改訂版を出していませんが、当会館所蔵洋雑誌の約60%は国内で当会館唯一所蔵の貴重な資料です。文部省学術国際局が「学術雑誌総合目録」を編集した際に所蔵データを提出しておりますので、人文・社会科学欧文篇の次版には当図書室所蔵の洋雑誌も収録されます。和雑誌の記事については当会館発行の婦人教育情報の巻末に毎号掲載している雑誌記事索引が

お役に立つでしょう。今後、和雑誌記事索引累積版及び逐次刊行物所蔵目録を刊行の予定です。

なお、当図書室はレファレンス・サービスを実施しており、特定の事柄に関する資料を捜してコピーしてほしいというお申込みも受付けておりますのでご利用下さい。

昭和57年度コピーサービス内訳(4月～11月)

申込者数	11(件)
申込点数	42
文 献 内 容 別	和 書
献内 形 態 別	洋 書
別	和雑誌
	洋雑誌
	新聞類その他
文 献 内 容 別	婦人教育
内 容 別	家庭教育
内 容 別	婦人問題
内 容 別	婦人労働
内 容 別	女性学
内 容 別	女性史
内 容 別	その他

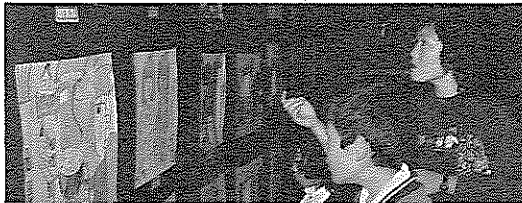
謹 賀 新 年

皆様の御活躍をお祈りします。

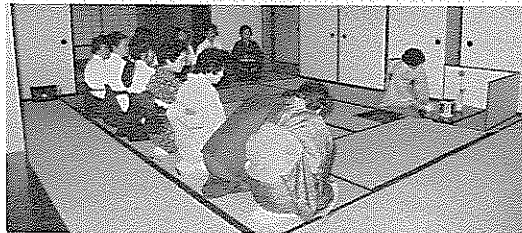
●地元開放行事終了

当会館では、地域住民とのコミュニケーションを図り、会館事業の理解と協力を得ることを目的として、昭和55年度から、地元開放行事を実施していますが、本年度は、開館5周年を迎え、地元嵐山町の「嵐山まつり」と並行して11月2日(火)～4日(木)の3日間を中心に、小・中学生による絵画・書道展等、多彩な行事が次のとおり実施され、家族連れの見学者が、多数来館し、盛況のうちに終了しました。

- (1)小・中学生絵画展(299点) 11月2日(火)～4日(木)
- (2) " 書道展(334点) "
- (3)菊花展 (30点) "
- (4)盆栽展 (25点) "
- (5)納税標語展 (50点) "
- (6)お点前(先着100名) 11月3日(水)



▲小・中学生絵画展



▲お点前風景

●「婦人教育情報」第7号の発行

開館5周年記念事業「婦人教育の充実をめざして—学習と実践の輪を—」を特集テーマに、全国から、応募された論文144編の中から、優秀作品6編を掲載するほか、57年度婦人教育国際交流事業の報告など婦人教育活動の紹介をしております。(58年3月発行予定)

購読希望の方は、第一法規出版(株) (〒107 東京都港区南青山2-11-17 電話03-404-2251)へ直接お申し込みください。来館される方は、売店でお求めになれます。B5判 68ページ 500円

(送料 200円)

●運営委員の異動

このたび当会館運営委員に次のとおり異動がありましたのでお知らせします。

新委員

赤松良子氏 (労働省婦人少年局長)

昭和57年10月20日付

辞 任

高橋久子氏 (前労働省婦人少年局長)

昭和57年10月19日付

●人事異動

昭和57年12月1日付けで次のとおり職員の異動がありました。

転入者

情報交流課 課長(文部省から)
鈴木 彬司

転出者

情報交流課 課長(北海道大学へ)
佐藤 繁好

●休 館 日 (2月～4月)

2月＝7日・21日 3月＝7日・22日

4月＝4日・18日

会 館 日 誌

- 10.15 ASPBAE(アジア・南太平洋成人教育協議会)
- ～10.17 日本会議開催(会館協賛)
- 10.22 運営委員会(57年度第2回)
- 11.2 地元開放行事(小・中学生絵画・書道展、
- ～11.4 菊花・盆栽展、お点前等)
- 11.5 婦人教育国際交流事業
- ～11.22
- 11.10 開館5周年記念事業開催
- ～11.30
- 11.10 昭和57年度婦人教育国際交流事業
- ～11.12 国際セミナー
- 11.16 昭和57年度婦人国内研修受入れ事
- ～11.18 業
- 11.17 開館5周年記念論文発表会

- 11.17 小川文部大臣来館、同発表会出席
- 11.19 昭和57年度婦人教育国際交流事業
- 国際交流会
- 11.19 開館5周年記念女性フェスティバル
- ～11.20
- 11.12 映画会
- ～11.13
- 11.16 映画会
- ～11.18
- 11.10 記念展示「5年のあゆみ展」
- ～11.30
- 11.16 会館ボランティアつどいの場
- ～11.20
- 11.25 家庭教育研究セミナー(57年度第3回)

「つき合い」

(女の立場で)

(男の立場で)

おぎゃあこの世に顔をみせて、まず親、姉妹とのつき合いが始まった。五番目で、オカメちゃんときているから、つき合いもなかなか骨が折れた。カワユゲにふるまい、素直げにふるまい、親の愛をかちとるには、気配りが大変だった。が、そこは血のつながりで、他人とのつき合いに比べると、パラダイスであった。ここで得た教訓→親と姉妹は、つき合い方にも雲泥の差あり。姉妹は他人のはじまりなり。

次なる深いつき合いは、つれあいである。ハニー、ダークの甘いつき合いは一年でおわり、男と女の争いは、ある時は妥結、ある時は決裂を繰り返しながらも、年輪で磨かれ、思いやりのオブラートで暖かく包まれ、今はよき戦友である。ここで得た教訓→男はおだてて、おだててつき合うべし。

さて、最も恐しき、いや楽しきつき合いは、女同士である。昨今、女性のつき合いも、かなり男性的になってきたと思う。〇〇さんの奥さんとしてではなく△△子さんとして、一人前につき合えることは喜ばしい。しかし、まだその歴史が浅いせいか、女の特性か、つき合いのイロハを知らぬ、未成熟夫人の多いのには少々まいる。故に私が女同士のつき合いで気をつけていることは、間口は広く、奥行きは浅くである。ただし、噛めば噛むほど味のある人を見つけた時は、茶の間まで通す。次に、我以外皆我師と心得て、悪口をいわれてもいわない。(これが口だけで、いやペンだけで、なかなか守れないのでーす。)

私のつき合いの夢は、多くの男性と自由に話し、飲み、切磋琢磨しあうことだが、日本の社会風土では、まだまだ誤解されやすく、実現できないのがとてもとても残念である。

会館ボランティア (H・A)

私達の集りは地域の民謡・民謡の愛好団体で、趣味として楽しみながら地域中高年齢者のコミュニケーションの場として活動をしています。会員の半数以上は中年女性であり、各地区のブロックに分かれ認定講師の指導により、地元また地方に古くから伝わる民謡をおさらいしている訳ですが、そんな活動の中、男性の目からみると常に女性が優位に感じられる。その理由は、男性に比べて声が美しく踊りも身のこなしが良く自信を持っている事また、発表会では和服を着こなし華やかさで発表会を盛り上げている。またその女性の為に男性は動かされる事に不満を感じないなどという事があげられると思う。しかし多くの人の集りである為、決してトラブルがないわけではない。こうした団体活動の上で必要なのは、相手の身になって物事を考え「思いやる心」を持つ事ではないでしょうか。高年齢者の多いこの会では、お互いに「聞き上手」になり、好みに片寄ることなく話し合い相手の立場をよく理解し、多くの友を得る事も目的の一つです。また、高齢化の進んできている今日、老人が趣味を持つという事は人生に張りを持ち、いつまでも若々しく生きられるという事です。我々の会の一例を上げると、70歳を過ぎた女性が、発表会のために美容院で髪を結い上げ、舞台上でスポットライトに照らされるとまるで別人のように若く美しく、また色気さえ感じられ、男友達からは花束などもらい、その顔は満足そのものでした。おそらくその後は友人達とその時の事を話題に、より一層つき合いを深めていったと思います。人間社会にとって年齢を問わず男女のふれ合いは欠かせられないものです。私達民謡会では、今後も女性をたて思いやりのあるつき合いの中で活動を進めて行きたいと思えます。

会館ボランティア (T・I)

●編集後記

時の流れのあわたしさに、今、やっと一息。深いため息をもらすと、季節はもう新年を迎えています。

昨年は、開館5周年でもあり、各種の事業が行われました。今号では、その様子を詳しく紹介いたしました。

この「会館だより」が、より多くの方々に親しまれることを目指し編集委員も一層の努力を重ねてゆきたいと思っております。機会あるごとに、御意見をおよせくだされば幸いです。

今は、冬のただ中。空気は透明に。冬の重さに押

しつぶされず、元気でお過ごし下さい。(K・K)

会館だより 第20号

発行日 昭和58年1月15日

編集発行 国立婦人教育会館

〒355-02 埼玉県比企郡嵐山町大字菅谷728番地

☎0493-62-6711(代表)